

平成 25 年 8 月 19 日

嬉野市議会  
議長 太田重喜 様

## 産業建設常任委員会報告書

産業建設常任委員会  
委員長 田中 政司

平成 25 年 6 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名 新幹線を活かしたまちづくりと開通後の現状について

### 調査理由

九州新幹線西九州ルートが 10 年余りで開通する予定である、嬉野市においても駅前周辺整備事業などのハード面においては順調に進んでいるが、新幹線を生かしての観光客の誘客や定住者増加に向けたソフト面で今後どのように取り組んでいくかが課題である。

そこで先進地の事例を視察し、今後の嬉野市の取り組みの参考とするため調査をおこなった。

### 調査内容

鹿児島県薩摩川内市と熊本県玉名市において、新幹線を生かした街づくりについて、それぞれの自治体の担当者より開通前からの取り組みや課題についての説明を受けた。

また新幹線開通と直接的な関係はないが、鹿児島市内において三越鹿児島店の撤退後、その建物を再利用し地域の活性化につながる取り組みをされている丸屋ガーデンを視察し担当者より説明を受けた。

#### 「薩摩川内市」

#### 1、 新幹線を生かした街づくり

##### ① 定住促進対策の推進

定住支援センター「よかまち・きやんせ倶楽部」の設置 18 年 12 月

定住促進補助金の交付 平成 17 年度から

##### ② シティセールスの推進

「観光・シティセールス課」を設置し、効果的なシティセールスを推進

ロゴマーク「薩摩川内スピリッツ」を策定

##### ③ 宝の島「甕島」への誘致促進

甕島の魅力を広く全国に情報発信し、新幹線さくらを活用した甕島への観光客の誘

致を促進する

## 2、九州新幹線開業による効果

### ① 時間短縮

川内駅～鹿児島中央駅	在来線	50分	新幹線	13分
	特急つばめ	35分		
川内駅～博多駅	特急つばめ	3時間40分	新幹線	1時間15分
川内駅～新大阪駅			新幹線	3時間57分

### ② 企業誘致の促進

九州新幹線の一部開業（平成16年3月）以降、18社の企業立地。

〃 全線開業（平成23年3月）以降、8社と立地協定を締結

### ③ 川内駅乗降客の増加

年度	15年度	16年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
乗降客	3,379人	5,087人	5,771人	5,542人	5,260人	5,469人	5,858人	5,927人
内新幹線	—	1,987人	2,520人	2,566人	2,483人	2,542人	2,876人	2,925人

### ④ 川内駅周辺へのマンション・ホテルの建設

マンション・・・平成18年3月以降4棟のマンションが建設。

ホテル・・・平成18年1月以降3棟のホテルが建設。

### ⑤ 観光入込客数の増加

年度	16年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
日帰り	1,661,181	1,896,452	1,931,578	2,011,515	2,118,604	2,309,751	2,391,602
宿泊	260,021	330,723	332,814	286,139	325,102	334,344	264,950

### ⑥ 定住人口（市内住宅取得者）の増加

住宅取得補助金・・・住宅の新築・購入の転入者に総額30万円～150万円の補助

平成17年～25年3月まで 1,175人

リフォーム補助金・・・住宅をリフォームされた転入者に総額20万円～100万円

平成20年～25年3月まで 164人

新幹線通勤補助・・・新幹線を利用し通勤される転入者に路線に合わせ補助

平成17年～25年3月まで 417人

## 3、九州新幹線開業に向けた主な取り組み 総事業費（かっこ内は市負担金）

九州新幹線鹿児島ルート建設に関わる負担金・・・約6,292億円（約9億円）

川内駅東西自由道路・・・約16億4,000万円（約10億4,000万円）

川内駅西口駅前広場・・・約9億3,000万円（約5億7,000万円）

薩摩川内市観光特産品館・・・約3億5,000万円（約1億8,000万円）

川内駅周辺土地区画整理事業・・・約43億円（約22億7,000万円）

駅前西口駐車場整備事業・・・約7億8,000万円（約4億4,000万円）

4、九州新幹線開業後の主な取り組み

複合拠点施設整備事業・・・約1,600万円（約1,600万円）

駅前白和線整備事業・・・約1億円（約4,500万円）

その他ソフト事業・・・観光シティセールス事業

計上事業市負担額（合計）約54億円

「マルヤガーデンズ」

鹿児島市内の三越鹿児島店の撤退を受け、地元の人たちが集うことができるガーデンと呼ばれるコミュニティスペースをデパート内に配置し、地元のNPOや各種団体、アーティストなどが展覧会、シンポジウム、販売会、各種教室やコンサートなど開業から2年で開催数は800を超えている。

今後の大型店舗の一つの形として、先進的な取り組みであるとの印象であった。

「玉名市」

1、九州新幹線玉名駅誘致期成会を組織

熊本県北部の4市17町村で組織し誘致活動を行う

平成10年3月12日に新玉名駅設置決定

2、新玉名駅周辺整備構想

35haの面積を駅舎・交流施設・駅前広場・駐車場・一般街区で構成する。

1日の乗降客を3,100人程度と予想し計画。

3、九州新幹線活用プロジェクト戦略会議

① 戦略会議を設立するにあたり、構成する庁舎内の関係課の職員9名で交通体系の整備・交流の促進・産業の振興・定住の促進など施策の洗い出し。

② プロジェクト戦略会議の設立 平成20年8月

委員の構成・・・観光協会・物産振興協会・温泉女将の会・商工会議所・青年会議所・JAたまななどでオブザーバーとして熊本県・新聞社などが参加

③ 戦略会議の流れ・・・全体会議、3部会で具体的内容の検討、庁舎内組織（プロジェクトチーム）との連携。

④ 戦略会議の各部会で検討された事項

・観光キャンペーン部会・・・市域内外に対し観光のPRや観光面でのおもてなしの向上、新幹線開業の意識向上を図ることを目的に写真コンテスト・玉名観光大使・新幹線絵画展などについて協議。

・物産・イベント部会・・・イベントプロデュースなどを中心に検討しイベントを活用した開業PRや物産のPR及び販売の検討。

- 「新玉名駅開業イベント実行委員会」を組織
- ・総務広報部会…行政で対応すべき施策について検討・改善・実施することを目的に九州新幹線活用プロジェクト戦略会議による新幹線設置駅の視察研修などの実施。

⑤ 戦略会議の取り組み

- ・新幹線PRのための看板・垂れ幕の作成
- ・新幹線新玉名駅PRDVD（15秒CM）の作成
- ・法被、のぼり、ポスター、ステッカーの作成
- ・ヤフードームでの玉名スペシャルデーの開催（観光キャンペーン）
- ・広島フラワーフェスタでのPRの開催
  - ・新玉名駅PR活用助成金制度（新玉名駅開業ロゴをポスターやチラシに利用すれば5万円を限度に助成）
  - ・開業1年前から様々なイベントの開催  
県北グルメグランプリ、薬草グルメグランプリ、試験列車新玉名駅到着歓迎式、オリジナル駅弁コンテスト
  - ・開業記念式典は東北震災の影響で開催できなかったが、開業1周年を記念様々なイベントを開催。

委員会の意見、

● 定住促進対策について

両市とも新幹線を利用しての通勤が増えることを予想し、定住者増加に向け定期券購入補助や定住奨励金などの施策に取り組まれているが、明暗がはっきり分かれている。薩摩川内駅においては、鹿児島市内から新幹線で一駅であり、新幹線のほとんどの車両が停車するため利用者は着実に増えている、しかし新玉名駅においては、新幹線の停車が1時間に1本（朝のラッシュ時は3本）と少ないため、利用者も少ない状況である。

しかし、玉名市においても住宅購入の補助金については2年間で約250人が利用しており、新幹線が通ることにより買い物やレジャーには便利ということで、定住者の増加にはつながっている。

嬉野市を考えた場合、現在の特急と時間的にさほど変わらないFGTでの開通では、福岡・長崎周辺への通勤客招致には多少無理があるのではないかと考えるが、定住者増加に向けては、福岡や長崎への利便性の向上など考えれば期待が持てるので、現在の定住奨励金制度などを再検討しながら、観光PRのみならず定住者確保へ向けたPRも積極的に行うべきである。

● 観光の施策について

薩摩川内市においては、今後いかに新幹線を利用した観光客増加を図るかの施策として、体験型プログラム「きゃんぱく」を（株）薩摩川内市観光物産協会が中心に展開しておられ、JRとのタイアップで成果が上がっているとのことである。

現在、新幹線の「さくら」「つばめ」が合計68本停車している現状は、新幹線を利用しての観光客誘致の施策を市が積極的に取り組むことにより、JRに対して強

く要望してきた結果との担当者の説明であった。

今後は嬉野市においても、新幹線を使った観光客をいかに誘致していくか、具体的な施策を早急に打ち出し、J Rと一体となったP R事業の展開を行うことが、新幹線の停車本数を増やすことにつながるのではと感じた。

玉名市においては、熊本県北部の拠点駅としての開業であるが現段階においてはその機能が十分に発揮されているとは言い難く、今後は玉名市だけでなく駅周辺の観光地や温泉が所在する自治体と密な連携をとり、県北部の観光ルートの設定などを進めていかなければならないとの説明には、嬉野市の課題が見えたようで、伊万里市、有田町、鹿島市、太良町などとの連携をいかに取りながら、観光施策を進めていくかが重要である。

- 駅前開発及び駅舎建設について

薩摩川内市、玉名市においてはそれぞれ駅前広場の整備においては多額の投資により整備がされていた。しかし駅舎については、ある程度の要望についてはJ Rに行ったとのことであるが、J Rが行う設計以上の要望を行えば、増額分についてはすべて市が負担しなければならないとのことから、J Rが提示した設計で建設されていた。

今後、(仮称)嬉野温泉駅の駅舎建設について、駅舎を見に来る観光客が期待できるわけではないので、多額のお金を投入する必要はないと考える。